

新聞スクラップ

1 これぞ「NIEタイム」の基本形

「NIEタイム」は、小学校低学年から高校生まで、全ての校種・学年で実施することができる活動です。その活動形態や「めあて」も、さまざまです。その中で、最も基本的で普遍的な実践が「新聞スクラップ」の活動です。スクラップは、新聞活用の入門編・基礎編であるとともに、生涯学習の究極の姿であるとも言えます。活動日は、週に1回か2回、「朝読書」の一環として実施している学校が多く、時間帯は朝の始業前の10分から15分間、長くても20分というものがほとんどです。

2 どんな活動を行うか

- ①「朝読書」と同じように、全く自由に、子供自身が自分の興味関心のおもむくままに、新聞記事を選び、切り抜き、貼っていきます。基本的に、教師による指示や評価は行いません。
- ②おおざっぱな「新聞記事選択の視点」や「テーマ」を決めてスクラップします。例えば、「明るい話題をさがそう」「ハッピーニュースをさがそう」とか「ビックリしたニュースをさがそう」「季節感のある記事をさがそう」「今日一番のニュースをさがそう」など、です。
- ③より視点を絞ったテーマで記事探しをします。例えば、「環境問題に関連した記事を探そう」（他に、原発問題・農業問題・健康問題・ゴミ問題・いじめ問題などさまざま）など。それを年間テーマあるいは学期のテーマにする場合と、1週間～1か月ぐらいの短期間のテーマにする場合があります。いずれも、テーマを教師が指定する場合と、子供たちが話し合って決める場合と、子供たち個人が自主的に決めてよいとする場合があります。
- ④毎回、教師が具体的な「課題」を決めて、子供た



ちに記事探しをさせる実践例もあります。小学校の低～中学年で比較的に多いようです。例えば、「楽しい写真をさがそう」「笑顔をさがそう」「季節をさがそう」「カタカナをさがそう」「木への漢字をさがそう」「一番大きい字、一番小さい字をさがそう」「外国の国名や地名や人名をさがそう」「夏をさがそう」など、です。

- ⑤「まわし読みスクラップ」という活動もあります。これは、学級で数冊のスクラップブック（ノート）を用意し、それにある子が選んだ記事をスクラップして貼り付け、簡単なコメントを記入。次の人に回します。受け取った子は、その記事やコメントについて自分の考えを付け加えたり、自分が選んだ記事を新たに貼ったりして、また次の人に回していくという方式です。学級内でスクラップブックが飛び交い、交流が深まっています。

3 何にスクラップしていくか

- ①市販のスクラップブック
- ②大学ノート
- ③教師制作の「スクラップカード」
- ④レターファイル
- ⑤クリアファイル
- ⑥紙袋方式

⑦その他

4 子供同士の交流や学びあいは

- ①作業は個人ごとに行い、スクラップカードを掲示板に掲示、あるいはノートテーブル上に展示して、グループ（班）内で相互に見合います。それに付箋を貼って感想や疑問や意見を書き入れ、交流することも可能です。
- ②グループ（班）ごとに、お互いのスクラップを見せながら簡単にプレゼンして交流しあいます。ただし、時間配分（制限時間）を設定しないと時間が延びてしまいがちですので、注意が必要です。
- ③グループの中で、「今日のベストスクラップ」を選び、全体の前で発表したり、指定の場所に掲示したりします。学級－学年－全校段階で選び、「スクラップ大賞」を表彰している実践例もあります。選ぶのは、子供だったり教師だったり校長だったり、さまざまです。
学級の中で子供が投票し、「S-1GP」（スクラップ・ワン・グランプリ）を選んでいるところもあります。
- ④内容の優れたスクラップをプリントして配布することも考えられます。

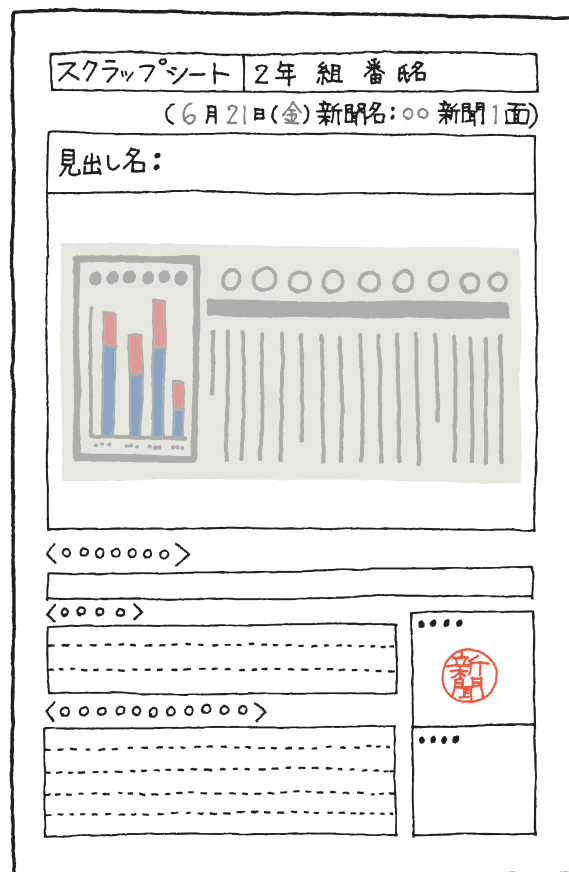
5 評価は

「朝読書」と同じように、教師による「評点」的な評価はしないということが基本ですが、提出されたスクラップカード（ノート）を教師がチェックして、一言コメントを書き添えて返却する場合があります。「確かに見ました」という証の検印を押すのみという場合もあります。いずれにしても、子供にも教師にもあまり負担にならない方式が望まれます。

6 新聞をどう調達するか

できれば子供一人ひとりが、当日の新聞を1部ずつ手にすることが望ましいと思います。しかし、現実にはそれは困難な学校が多いでしょう。そこで、全国ではさまざまな工夫や試みがなされています。

- ①基本的に各家庭で購読している新聞を持参してもらいます。その日の新聞でなくてもかまいません。



●スクラップシートの例

新聞を定期購読していない家庭もありますので、購読家庭に過去の新聞を提供してもらいます。持ってこれない子がづらい思いをしなくてすむ配慮として、持参した新聞や学校側で用意した新聞を1か所に積んでおき、自由に持って行くシステムにするとよいでしょう。

- ②「教材費」の一つとして児童生徒から新聞代を徴収している学校も、少数ながら存在します。
- ③学校の予算で購入するケースもあります。
- ④学校用教材価格を設定している新聞社があります。この割引価格を利用して学校単位（あるいは教育委員会単位）で購入しているケースも見られます。
- ⑤新聞は、一人1部でなくても、グループに1部配り、面ごとにバラバラにして、それを順繰りに回し読みしても、効果はほとんど変わりません。あまり過去のものでなければ、当日の新聞でなくても構いません。
- ⑥図書館に配備されている新聞を利用する方法もあります。
文部科学省は、2017年度を初年度とする第5次「学校図書館図書整備等5か年計画」を策定し、

こんな記事 見つけた！

小学校 年 組 氏名()
 月 日 新聞 朝刊・夕刊

こんなことがわかった！ 思った！ かんがえた！

.....

.....

.....

.....

記事をここにはります

_____から

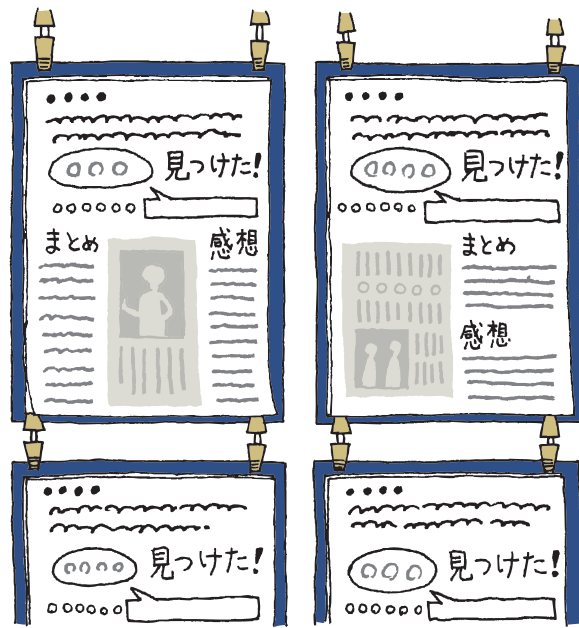
●スクラップシートの例

新聞配備に5年間で約150億円を財政措置しています。これは学校図書館に新聞を小学校で1紙、中学校で2紙、高校で4紙を配備できる額です。

以上いずれの場合も、「情報というのは、タダではない。多くの人の手と経費をかけて作られ届けられるものである」ことを子供たちにしっかり認識させたいものです。

7 実施にあたっての留意点

- ①「通常の授業」ではないことを肝に銘じておきたいと思います。「楽しい」「面白くて役に立つ」活動になるようにしたいものです。
- ②できれば学校全体で取り組みましょう。学年ごと学級ごとの実施も可能です。各学校や職員組織の実態に合わせた無理のない実施が望まれます。



●掲示例

- ③経験や工夫、子供の声などの交流を通じて、自校や子供の実態に応じたよりよい方法を模索していきましょう。

8 子供たちの声から

- はさみをじょうずにつかえるようになった。(小1)
- 新聞がおもしろくなった。(小3)
- はじめはめんどくさいと思っていたけれど、だんだん新聞のおもしろさに引き込まれるようになった。(小5)
- 世の中や世界のことに興味を持つようになった。(小5)
- 人の気づかない小さなニュースを見つけるのが楽しい。(小5)
- 母や父と記事を紹介しあうようになった。(小6)
- 続けることの大切さが分かった。(中1)
- 家でも新聞をめくるようになった。(中2)
- 記事のキーワードや重要な箇所が短時間で見つかるようになった。(中2)
- これは小論文訓練に役立つ。(高3)